

問 1 大気の温度の高度分布の成因について述べた次の文章の下線部 (a) ~ (c) の正誤の組み合わせとして正しいものを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。

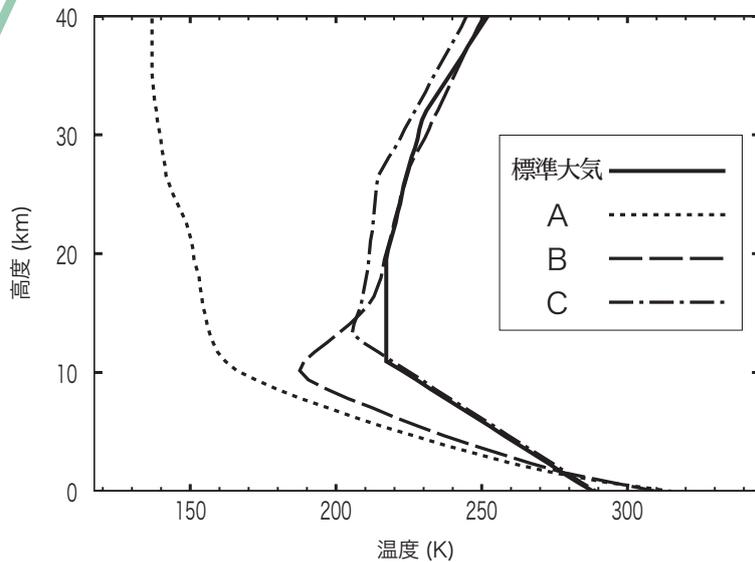
大気からの再放射があるので、温度が高くなる。

図は大気温度の高度分布を示したものであり、実線は標準大気、A ~ C は、それぞれ条件を変えて行った大気放射平衡および放射対流平衡の数値実験の結果を示している。

いずれの数値実験でも、地表付近の温度は (a) 大気がまったく存在しないと仮定したときに算出される放射平衡温度よりも高い。高度 10km 以下では、A、B の方が C よりも温度減率が大きい。これは、A、B では (b) 対流による熱の輸送の効果が考慮されていないためである。一方、高度 10km 以上では、B、C の温度は、A よりも極端に高い。これは、B、C では (c) 大気中に含まれるオゾンによって太陽放射中の可視光が吸収されるときに加熱の効果が含まれるためである。

紫外線

対流圏では、対流による熱輸送は無視できない。



- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) |
| ① | 正 | 正 | 正 |
| ② | 正 | 正 | 誤 |
| ③ | 正 | 誤 | 正 |
| ④ | 誤 | 正 | 誤 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 正 |

問 2 表は、未飽和の湿潤空気塊と飽和した湿潤空気塊を断熱的に膨張させたときに、それぞれの空気塊が持つ最上欄に示した物理量が保存されるかどうかを記号で表したものである。この表の空欄 (a) ~ (d) に入る記号の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

物理量	混合比	相対湿度	温位	相当温位
未飽和湿潤空気塊	(a)	×	(c)	○
飽和湿潤空気塊	×	(b)	×	(d)

記号 ○ : 保存される × : 保存されない

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | ○ | ○ | ○ | × |
| ③ | ○ | ○ | × | ○ |
| ④ | ○ | × | ○ | ○ |
| ⑤ | × | ○ | ○ | ○ |

これは、基本概念として大事なので自分で勉強して下さい。

問3 表に示すような分子量を持つ気体A~Dがある。気体B,Dの圧力を気体A,Cと同じ1000hPaに断熱的に変化させたとき、四つの気体を密度が小さい順に左から右へ並べた順序として最も適切なものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

ただし、気圧を P 、体積を V 、質量を m 、分子量を M 、普遍気体定数を R 、絶対温度を T としたとき、気体の状態方程式は $PV=(m/M)RT$ であり、密度は m/V である。

気体	分子量	圧力	温度	温位
A	32	1000 hPa	310 K	
B	32	700 hPa	271 K	300 K
C	28	1000 hPa	310 K	
D	28	700 hPa	271 K	300 K

←小 気体密度 大→

①	A	B	C	D	$PV=(m/M)RT$ を変形すると $m/V=PM/TR$ となる この式に数字を入れると次のようになる。 気体A $m/V=1000 \cdot 32/310R=103/R$ 気体B $m/V=1000 \cdot 32/300R=107/R$ 気体C $m/V=1000 \cdot 28/310R=90/R$ 気体D $m/V=1000 \cdot 28/300R=93/R$
②	B	A	D	C	
③	C	A	D	B	
④	C	D	A	B	
⑤	D	C	B	A	

問4 降水粒子の形成と発達に関する次の文 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 水滴が他の水滴を併合して成長する過程では、単位体積の空気中に存在する水滴の質量の合計が同じであれば、水滴の半径がほぼ揃っているときよりも、水滴の半径が幅広く分布しているときの方が、水滴の成長速度が速い。
粒の大きさが違うと落下速度も違うので、衝突頻度が高い

(b) 雲頂温度が -20°C 以下の雲には、ほとんどの場合氷晶が存在する。
 -20 以下の雲では95%の確率で氷晶がある (一般気象学p94)

(c) 陸上では多くの土壌起源の粒子が氷晶核として働くために、単位体積の大気中に含まれる氷晶核の数は凝結核の数よりも多い。
一般的に氷晶核は凝結核よりもずっと少ない (一般気象学p93)

(d) 過冷却水滴でできた雲内に生成された氷晶は、過冷却水滴を捕捉する過程がないと降水粒子に成長することができない。
氷晶同士の衝突による付着の成長もある

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| ③ | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| ④ | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

問 5 大気中における散乱と黒体放射に関する次の文 (a) ~ (c) の下線部の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) レイリー散乱では、空気分子による太陽光の散乱の強さは電磁波の波長が長いほど大きい。晴れた空が青く見えるのはこのためである。短いほど大きい

(b) ミー散乱では、散乱の強さは電磁波の波長にあまり依存しない。雲が白く見えるのはこのためである。

(c) ウィーンの変位則によれば、単位波長あたりの放射エネルギー強度が最大になる波長 λ_{max} は放射体の絶対温度 T に反比例し、

$$\lambda_{max}(\mu\text{m}) = 2898(\text{K}\cdot\mu\text{m}) / T(\text{K})$$

となる。太陽放射エネルギーが最大になる波長は約 $0.5\mu\text{m}$ であり、地球放射エネルギーが最大になる波長はその約 40 倍に該当する。

太陽の光球の温度は5780K

地球の放射平衡温度は255K

だから、約20倍になる

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) |
| ① | 正 | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 | 正 |
| ③ | 正 | 誤 | 誤 |
| ④ | 誤 | 正 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 正 | 誤 |

問 6 上段の図に示すように、北半球中緯度にある正方形の領域の

北半球の地衡風は高度面が高い方を右手に見て吹くから

300hPaでは東側の高度が高い(水色面)

700hPaでは南側の高度が高い(黄色面)

図示すると右図のようになる。

(南側を手前にすると面が見づらいので手前が北側です)

300hPaと700hPaの層厚を4隅で比べNEが最も厚く、SWが薄いことが分かる。

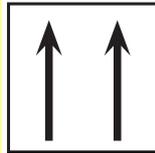
SEとNWはその中間。

層厚あついは気温が高い

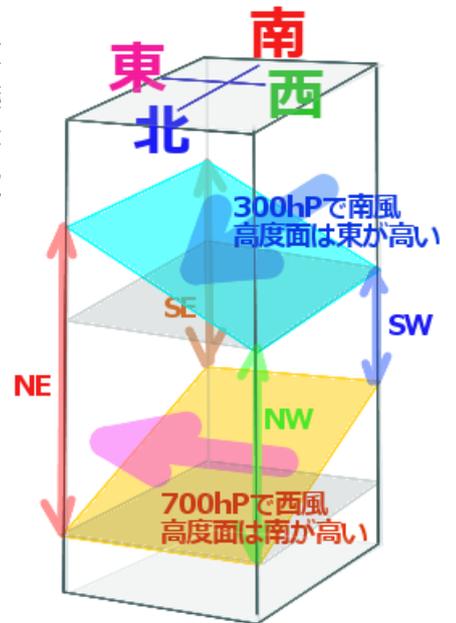
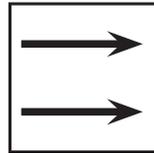
SWが低温部、NEが高温部となり

正解は となる。

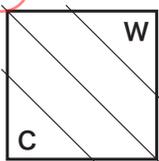
300hPa



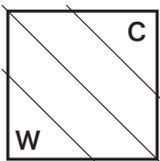
700hPa



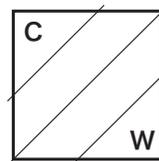
①



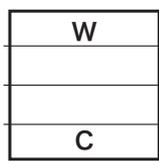
②



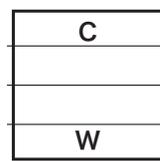
③



④



⑤

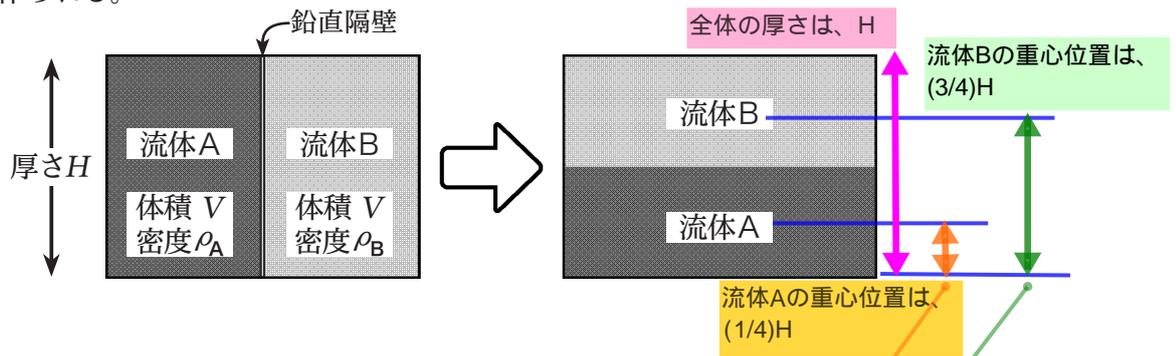


問 7 非圧縮流体が持つ位置エネルギーと流体の運動について述べた次の文章の空欄 (a) ~ (d) に入る適切な語句または数式の組み合わせを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。

左図のように同じ体積 V で密度の異なる流体 A と B があり, 中央にある厚さが無視できる鉛直隔壁で分離されている。流体 A の密度 ρ_A は流体 B の密度 ρ_B より大きく, これらの密度はそれぞれの流体内部では場所によらず一定で, この後の運動によっても変化しないものとする。

底面を基準とした流体の厚さを H , 重力加速度を g とすれば, 左図の流体の全位置エネルギーは (a) となる。中央の隔壁が取り去られ, 右図のように流体 A が下に, 流体 B が上になった場合を考えると, 左図の状態の流体の全位置エネルギーから右図の状態の流体の全位置エネルギーを差し引いた差は (b) となる。これは流体の位置エネルギーの減少分を表しており, この減少分は流体の移動等の運動エネルギーに変換される。

実際の気では, 温帯低気圧の運動エネルギーは, 大気の水平方向の温度差に起因する位置エネルギーによる低気圧進行方向前面の (c), 後面の (d) によって作られる。



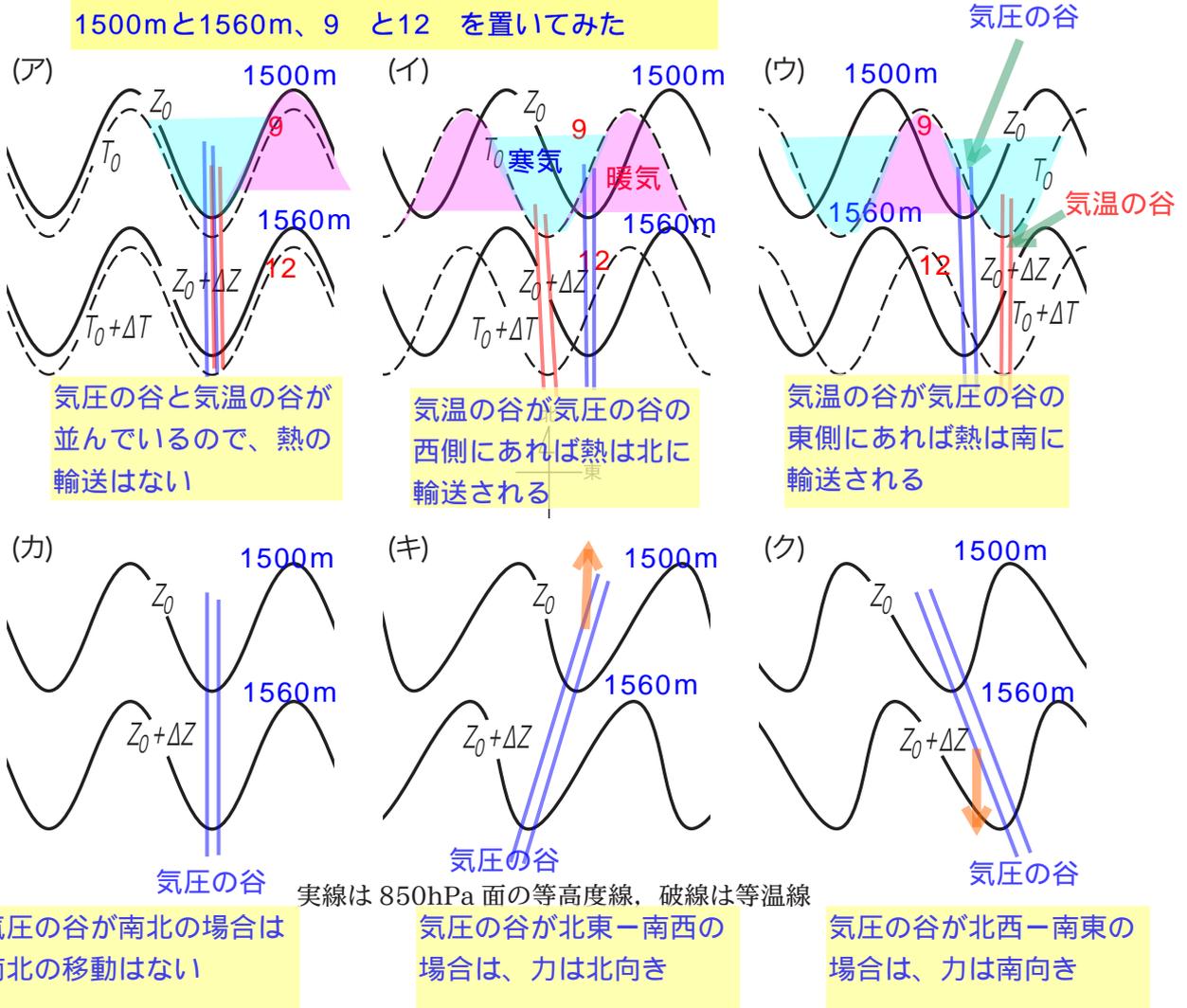
- | | | | |
|----------------------------|--------------------------|------|------|
| (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① $(\rho_A - \rho_B)VgH/2$ | $(\rho_A - \rho_B)VgH/4$ | 寒気下降 | 暖気上昇 |
| ② $(\rho_A - \rho_B)VgH/2$ | $(\rho_A + \rho_B)VgH/4$ | 暖気上昇 | 寒気下降 |
| ③ $(\rho_A + \rho_B)VgH/2$ | $(\rho_A - \rho_B)VgH/4$ | 暖気上昇 | 寒気下降 |
| ④ $(\rho_A + \rho_B)VgH/2$ | $(\rho_A + \rho_B)VgH/4$ | 暖気上昇 | 寒気下降 |
| ⑤ $(\rho_A + \rho_B)VgH/2$ | $(\rho_A + \rho_B)VgH/4$ | 寒気下降 | 暖気上昇 |

流体の位置エネルギーを重心位置に集中的にかかるものとみなして計算する

(a) (A- B) の必然性がないことに気がつけば簡単な問題だ。
 (b) 流体Aの位置エネルギーは $AVg(1/4)H$
 流体Bの位置エネルギーは $BVg(3/4)H$
 $(a)-(b) = (A + B)VgH/2 - AVgH(1/4) - BVgH(3/4)$
 $= ((1/2)A + (1/2)B - (1/4)A - (3/4)B)VgH$
 $= ((1/4)A - (1/4)B)VgH$ 2014/12/25訂正
 (c)(d)は全面に暖気、後面に寒気は
 温帯低気圧構造の基本中の基本。

問 8 中高緯度の気は、偏西風帯内の波動によって熱や運動量を南北方向に輸送している。北半球中緯度の 850hPa 面の等高線と等温線に各図に示すような波動があったとき、(ア)～(ウ)のうち、熱を北方向に輸送するものと、(カ)～(ク)のうち、西風の運動量を北方向に輸送するものの組み合わせとして正しいものを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。ただし、各図の上方が北を向いており、 Z_0, T_0 はそれぞれ等高線と等温線の値、 $\Delta Z, \Delta T$ はそれぞれ正の高度差と正の温度差である。

記号ではイメージしにくいので、仮の数字として 1500m と 1560m、9 と 12 を置いてみた



熱を北に輸送 運動量を北に輸送

- | | | |
|---|-----|-----|
| ① | (ア) | (カ) |
| ② | (イ) | (キ) |
| ③ | (イ) | (ク) |
| ④ | (ウ) | (キ) |
| ⑤ | (ウ) | (ク) |

一般気象学のp189-190を
しっかり理解してください

問 9 熱帯地方で観測される典型的なスコールラインに関する次の文 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。

~~(a)~~ スコールラインが通過しても, 地上気温はほとんど変化しない。

湿度が上がり気温が低下する

~~(b)~~ スコールラインの進行方向後面で新しい降水セルが継続的に形成され, スコールライン内を前面に向けて移動しながら発達するので, スコールラインは全体としてゆっくり前方に移動する。

(c) スコールラインの通過に伴って気圧が急変することがある。

気圧は上がる

(d) スコールラインは進行方向後面に層状性の雲の領域を伴っており, そこでは連続性の降水をもたらす。

対流性領域の後には層状性の雲が長く延びていて、弱いシトシト雨も降っている。(一般気象学p221)

- | | (a) | (b) | (c) | (d) |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| ② | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| ③ | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| ④ | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| ⑤ | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

問10 成層圏の循環に関する次の文 (a) ~ (c) の正誤の組み合わせとして正しいものを、下記の①~⑤の中から一つ選べ。

- (a) 北半球の中・高緯度の成層圏では、夏季には対流圏からプラネタリー波が伝播せず、天気図では等高度線は北極を中心とする同心円状になり、西風が卓越する。
- (b) 北半球の中・高緯度の成層圏では、冬季には対流圏からプラネタリー波が伝播し、天気図には等高度線の不規則な蛇行がしばしば見られる。
- (c) 北半球の中・高緯度の成層圏では、冬季には対流圏からのプラネタリー波の伝播によって、北極周辺での急激な気温上昇、および高度場と風の場の大規模な変動を伴う突然昇温が起こる。

- | | | |
|-----|-----|-----|
| (a) | (b) | (c) |
| ① | 正 | 誤 |
| ② | 正 | 誤 |
| ③ | 誤 | 誤 |
| ④ | 誤 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 正 |

問11 海洋による大気中の二酸化炭素の吸収量について述べた次の文 (a) ~ (d) の正誤について、下記の①~⑤の中から正しいものを一つ選べ。

- (a) 海洋が酸性化し海水のpHが小さくなると、海洋の二酸化炭素の吸収量は減少する。**炭酸ガスが溶解すると水のpHは小さくなる (酸性側に動く)**
- (b) 海面水温が上昇すると、海洋の二酸化炭素の吸収量は減少する。**温度が上昇すると気体の溶解度は小さくなる**
- (c) 海洋の二酸化炭素の吸収量の上限は、主に海洋表層から深層への二酸化炭素の輸送量に依存している。**海洋表層の炭酸ガス濃度が、大気と平衡に達したらそれ以上吸収できない**
- (d) 海洋の二酸化炭素の吸収量は、エルニーニョ現象など海況の影響を受けて変動している。**表層の水温が変動すれば(b)の理論で吸収量は変動する**

- ① (a)のみ誤り
- ② (b)のみ誤り
- ③ (c)のみ誤り
- ④ (d)のみ誤り
- ⑤ すべて正しい

問 12 予報業務の許可を受けている者が、その予報業務の範囲を変更するときにとるべき手続きを述べた下記の①～⑤の中から正しいものを一つ選べ。

- ① ~~変更した日から 30 日以内に~~、その旨を気象庁長官に報告しなければならない。
- ② ~~変更しようとする日の 30 日前までに~~、その旨を気象庁長官に届け出なければならない。
- ③ ~~過去 1 年間の予報実績を添付して~~、気象庁長官に変更の承認を申請しなければならない。
- ④ 事前に、気象庁長官の変更の認可を受けなければならない。
- ⑤ 気象庁長官に対して、~~改めて予報業務の許可を申請~~しなければならない。

問 13 予報業務の許可を受けた者が、現象の予想を行う事業所ごとに原則として置かなければならない気象予報士の人数について述べた次の文章の空欄 (a) ～ (d) に入る適切な語句または数字の組み合わせを、下記の①～⑤の中から一つ選べ。

予報業務の許可を受けた者は、現象の予想を行う事業所ごとに、1 日当たりの現象の予想を行う時間に応じて、8 時間以下のときには (a) 名、8 時間を超え 16 時間以下のときには (b) 名、16 時間を超えるときには (c) 名以上の専任の気象予報士を置かなければならない。

複数の気象予報士を配置しなければならない事業所の気象予報士の数がこの規定を満たさなくなったときには、(d) 以内にこれを満たすように補充しなければならない。ただし、この期間も 1 名以上の気象予報士が配置されていなければならない。

	(a)	(b)	(c)	(d)
①	1	2	3	2 週間
②	1	2	3	1 か月
③	1	3	4	1 か月
④	2	3	4	2 週間
⑤	2	3	4	1 か月

気象予報士の基本
これを間違えるようじゃ
受験資格なし

問 14 気象業務法に規定する罰則 (罰金または懲役) が適用される事例について述べた次の文 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 地方公共団体が気象庁に届け出をして使用している防災用の雨量計の設置位置を正当な理由なく移した者は処罰の対象となる。懲役3年、罰金100万円

(b) 予報許可を受けている事業者が, 1年間の長期間にわたり予報業務の休止をするにあたって, 休止に先立ちその許可を気象庁長官に申請しなかったときには, その事業者は処罰の対象となる。罰則規定なし

(c) 気象予報士が死亡したときに, その旨を気象庁長官に届け出ることを怠った相続人は処罰の対象となる。罰則規定なし

(d) 気象庁長官の命を受けて私人の所有地で観測を行おうとした気象庁職員に対して土地への立ち入りを拒んだ所有者は処罰の対象となる。罰金30万円

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| ② | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| ③ | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| ④ | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| ⑤ | 誤 | 正 | 誤 | 正 |

問 15 高潮に関する警報と予報について述べた次の文 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせとして正しいものを, 下記の①~⑤の中から一つ選べ。

(a) 高潮のため河川の水位が上昇してはん濫などの重大な災害のおそれがある場合は, 高潮警報が発表される。気象警報には次の7種類がある
大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮

(b) 気象庁以外の者は, 高潮警報を発表してはならない。

(c) 水防警報は, 洪水・津波のほか, 高潮によって災害が発生するおそれがあるときにも発表される。

(d) 都道府県知事が高潮予報を行うには, 気象庁長官の許可が必要である。

高潮警報とは違うよ

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) |
| ① | 正 | 正 | 正 | 正 |
| ② | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| ③ | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| ④ | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| ⑤ | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

気象庁以外の者は、気象警報をすることはできない。
例外は津波警報だけ。(気象以外の警報は水防警報・火災警報がある)